

事業報告書

2021年11月

事業ID : 2020532455

事業名 : 被災地高齢者へ向けた、新型コロナウイルスに伴う社会不安へのオンライン啓発教育
(covid19 支える)

団体名 : 特定非営利活動法人心の架け橋いわて

目次

1.	事業概要	1
2.	事業の目的	1
3.	実施内容	1
4.	成果と課題	2
	(1) インタビュー結果	2
	(2) 成果と課題	3
5.	今後の展望	4

1. 事業概要

新型コロナウイルスの影響下においても、東日本大震災被災地域（主として岩手県大槌町、釜石市）に在住する高齢者等のための支援活動を継続して実施するため、オンラインを活用したサロンを実施した（一部に高齢者以外が参加）。

当法人の活動メンバーは、県内に在住する「地域支援メンバー」と県外に在住する「遠隔支援メンバー」とに分類されるが、新型コロナウイルス感染拡大下においては、遠隔支援メンバーの現地活動が困難となったため、可能な限り、地域支援メンバーまたは当法人の活動に協力する外部支援者が現地でサロン活動を行い、そこに、オンラインで遠隔支援メンバーが参加し、健康講話などを実施した。

2. 事業の目的

本事業の目的は、オンラインを活用した地域コミュニティ支援の継続的な実施による、被災地域在住高齢者の心身の健康維持と、感染症に対する適切な理解の促進である。

3. 実施内容

サロンは、現地での集合形式、支援者がオンラインで参加する形式併せて以下の日程で実施した。

月日	テーマ	場所	形式	参加人数
2020/11/7	蜜蝋ラップ作り	社協こ茶っこ（大槌町）	現地での集合形式	4
2021/1/9	モノづくりサロン	社協こ茶っこ（大槌町）	現地での集合形式	7
2021/2/27	スマホサロン	社協こ茶っこ（大槌町）	現地の集まりにオンラインで支援者が参加	14
2021/5/21	オンライングループディスカッション	NPO法人かだっべし（釜石市）	現地の集まりにオンラインで支援者が参加	5
2021/5/26	音楽サロン&感染症対策	社協こ茶っこ（大槌町）	現地の集まりにオンラインで支援者が参加	7
2021/6/12	感染症対策サロン	NPO法人かだっべし（釜石市）	現地の集まりにオンラインで支援者が参加	7
2021/7/15	初心者向けスマホ講座	おしゃっち（大槌町）	現地での集合形式	11
2021/7/20	熱中症対策講座	NPO法人かだっべし（釜石市）	現地の集まりにオンラインで支援者が参加	7
2021/9/30	初心者向けスマホ講座	おしゃっち（大槌町）	現地での集合形式	20
2021/10/22	音楽サロン&認知症対策を考える	社協こ茶っこ（大槌町）	現地の集まりにオンラインで支援者が参加	6

感染拡大に伴う移動制限に応じて現地での集合形式、あるいは支援者のみがオンライン参加する形式のサロンを実施した。この期間を通じて合計 86 名の参加があった。

以下はサロンの様子。

2021年2月27日「スマホサロン」



2021年5月26日「音楽サロン&感染症対策講座」



2021年10月22日「音楽サロン&認知症対策を考える」



4. 成果と課題

本事業実施中のサロン参加者 80 名以上との目標に対しては、86 名の参加を得ており、目標を達成することができた。心身の健康維持と感染症に対する適切な理解の促進というサロン実施の目的に関しては、参加者及び実施に協力してくれた団体の職員併せて 8 名にインタビューを実施した。

(1) インタビュー結果

インタビューでは、「サロンが健康や感染予防に関する話が役に立ったかどうか」、「オンラインサロンの感想」のおもに 2 点を伺った。その結果得られたコメントの概要をまとめた。

健康や感染予防についての話が役に立ったというコメントや、現地に来られない状況でも専門家と話ができる機会があることを評価する声がある一方で、オンラインであるためのコミュニケーションの難しさについ

てもコメントがあった。

問 1「サロンが健康や感染予防に関する話が役に立ったかどうか」についてのおもなコメント

- 家族が内陸の方に行き来したり、介護職に就いていたりするので感染しないよう細心の注意を払っていた。感染症対策の話の内容が非常に役に立った。
- 感染症対策のポイントとしてサロンで話が合った内容でチラシを作成して手洗い場に貼った。講座を受けることで意識が高まってそれが行動にもつながった。
- 利用する方は感染症対策の意識が高い人が多いが、自分の対策を見直す良いきっかけになった。感染者数が抑えられている状況ではあるが、話を聞いたことで振り返りや確認ができていた。

問 2「オンラインサロンの感想」についてのおもなコメント

- オンラインでイベントをするというのが初めての経験だったので、最初は戸惑いがあったものの、顔を合わせて会話ができるというところについては楽しくできた。
- （現地に来られない状況でも）専門家と話ができて、分からないことなどの助言がもらえたことはよかった。
- インターネットへの接続がうまくいかないときは大変。
- オンラインなのでコミュニケーションに少し間が空いたり、空気感が伝わらなかつたりするところがある。ずっと一緒にいる人がたまにオンラインで話をするのであれば、まだこの差が小さいと思うが、ずっと離れた相手だと難しい面もある。慣れの問題で徐々に慣れる可能性はあると思うが、高齢者の方にとっては時間がかかりそうだ。
- オンライン、対面に関わらず、コンテンツが自分の興味のあるもの、健康問題であれば自分の関心がある病気のことだと熱心に聞いているようだ。
- オンラインではわかりにくいこともあるので、オンラインの良さ・不便さ、対面の良さ・不便さをうまく組み合わせるとよいと思う。

(2) 成果と課題

コロナ禍において、「オンラインを活用した地域コミュニティ支援の継続的な実施により、被災地域在住高齢者の心身の健康維持と、感染症に対する適切な理解の促進」を行うという本事業の目的に対しては、感染拡大の影響でサロンの開催ができない月が数回あったものの、継続して実施することができ、また、期間の延長はあったものの、86名の参加を得たことは意義のあることだったと考えている。

「心身の健康維持と感染症に対する適切な理解の促進」の観点からは、サロン中、参加者からの質疑応答の時間を多めにとったり、一方的な講義形式とならないよう参加者を交えたディスカッション形式にしたりして、参加者の興味を引き、また、より話しの内容を身近に感じてもらうなどの工夫を行った。インタビューの結果を踏まえると、目的通りに健康維持に貢献できているのではないかと考えている。

「オンラインを活用したサロンの実施」の観点からは、当初、機器の使い方にも慣れない中、まずはタブレットを1台置いてみてつないでみる、というところから始まったが、最初はwifiにつながらない、充電切れやカメラの角度が合わないなど、数々のトラブルに見舞われた。

ただ、毎回振り返りを重ね、それに基づき改良を重ねることで、10月時点では、2台のタブレットにプロジェクター、タブレットの固定台などを使って、現地からオンラインの参加者を見たり、オンラインの参加者が現地の様子を確認したりすることがやりやすくなるなど、よりスムーズな運営が可能になった。また、釜石市のNPO法人かだっぺしのメンバーの方にオンライン対応スタッフとして入ってもらうことでトラブル時の対応がさらに早くなった。

このように、運営側もオンラインの活用慣れていく過程で、インタビューでも話が聞かれたように、参加者の方もオンラインのサロンに慣れていったものと推察している。

ただし、インタビューにあったように、インターネットに接続ができない場合があったり、会話に時差が生じたりするなどの不便は依然存在するので、このような不便の解消は今後の課題であると考えている。

5. 今後の展望

新型コロナウイルス感染拡大への対策として始めたオンラインサロンであったが、実施してみると、当団体のように平日他の業務のある支援メンバーでも、限られた時間ではあるが、平日のサロン開催が可能になったり、移動に伴う時間が削減できたりするなど、上述したサロンの効果に加えて副次的な効果も認められた。

感染状況をよく見極めながら、対面とオンラインとをうまく活用してサロン運営を行うことは、感染に限らないその他の制限下（支援メンバーが移動時間を確保できないという制限や、その他の災害発生による移動制限など）においても有効であると考えことから、感染が落ち着いた後でも継続して活用したいと考えている。

ただし、上述の通りのオンラインならではの不便（インターネットの接続や会話における時差など）はまだ存在しているため、引き続き改善を図ることで、オンラインと対面とをうまく融合させた、より快適で楽しいサロン運営を行うようにしたい。